

発表者：T.Erdenebat 博士（モンゴル科学技術大学）

発表タイトル：「モンゴルにおけるスカイ・インフラ」

キーワード：無人航空機、クワッドコプター

活動目標：モンゴルは都市部への人口集中と農村部の孤立化という課題に直面しており、エンジニアリングソリューションが必要である。これに対応すべく、私たちは遠隔地の遊牧民を支援し、都市部の人口過密を緩和するプロジェクトを提案する。本プロジェクトは、市場リスクを軽減し、経済の低迷を防ぎ、航空宇宙技術、特に UAV の使用を促進することを目標とする。多くの先進国が同様のソリューションの採用により経済を強化し、自然災害に対応し、緊急医療サービスを提供し、迅速なサービスを提供している。我々は、収益性の高い UAV を使用することにより、費用対効果の高い航空輸送および郵便ネットワーク構築を提案する。

活動内容：スカイインフラプロジェクトの枠組みの中で、モンゴルに航空郵便配達ネットワークを確立することを目標としている。我々は以下の問題を解決するために、研究の範囲内で次のタスクを実行している。

1. UAV 用粉砕エンジンの研究開発
2. UAV 用タービンジェットエンジンの研究開発
3. 電気エンジンを搭載した UAV の研究開発
4. UAV 用「オートパイロット」の研究開発
5. UAV 用「地上管制ステーション」の研究開発

活動成果：我々の共同研究は、モンゴルにおける物流上の課題に対処するための調整された無人航空機技術の大きな進歩につながった。我々は協力して、費用対効果の高い航空輸送ネットワークを開発し、過酷な条件下での無人航空機の性能を改善し、農村開発のための拡張可能なソリューションを生み出した。これらの成果は、航空宇宙と物流の将来の進歩の基盤を築いた。この協力を通して、モンゴルと日本の専門家間の知識の交換も促進され、両国の研究能力が強化された。さらに、我々の研究は業界リーダーの関心を集め、将来の商業的応用への道を切り開いた。

協力案：モンゴルと日本の協力は、特にテクノロジー、物流、インフラの分野で大きなビジネスチャンスをもたらす。無人航空機や航空宇宙技術分野での日本の高度な専門知識を活用することにより、モンゴルは輸送ネットワークを強化し、遠隔地へのアクセスを改善する。このパートナーシップは革新的ソリューションに対する投資への扉を開き、経済成長を促進し、両国間の絆を強化するものである